

## 第1回（平成19年度）栃木県元気な農業コンクール首都圏農業部門受賞者の概要

### 大越 一雄・歌子（下野市）

とちぎ元気大賞（農林水産大臣賞）受賞及び  
とちぎ元気賞（知事賞）受賞【土地利用型の部】

#### ア 経営

稲(14ha)＋二条大麦(28ha)の大規模経営体  
で所得率も高く、ゆとりある農業経営を実践している。後継者(27才)が確保されており、重機オペレータの勤務経験を生かし圃場均平作業などをこなす。平成16年に下都賀管内で最初の水稲でエコファーマーとして認定され、環境に優しい農業を展開している。また、野焼きが禁止されたことを受けストローチョッパーを導入し、いち早く稲わら・麦わらのすき込みを行い有機物還元を進めている。



#### イ 生産技術

技術面については、品種の組合せによる作期分散を図ると共に省力化を実現している。作業計画をしっかりと立て、家族経営協定に基づき役割の分担を明確にし、責任を持って作業に当たっている。

#### ウ 労働と生活

お互いの予定はカレンダーに書き込んで、計画的な作業ができるように工夫するとともに、農繁期には雇用を活用しながら適正な労働配分に努め、週1回の社交ダンス教室など趣味の時間は大切にしている。

#### エ 販売の工夫

平成5年の大冷害をきっかけに米の直接販売を手がけ、現在は市内のみならず近隣市町まで配達し、遠方は配送している。直販する米は有機質肥料を用いた特別栽培米（除草剤1回のみ）で、顧客の中からモニターを委嘱し、意向を反映するように栽培している。消費者との交流も積極的に実施しており、3月と7月に100名ほどを招き農業体験の場を提供し「食と農」の理解促進に努めている。

#### オ 元気度

地域の活性化を図りよりよい地域環境づくりを進めるため「笹原すみよいまちづくりの会」を発足させ活動しており、現在、加工に取り組む準備を進めている。

藤田 伸一・真理子（日光市）

※とちぎ元気大賞（農林水産大臣賞受賞）  
及びとちぎ元気賞（知事賞）受賞

【園芸の部】



ア 経営

高冷地という限られた経営環境条件のなかで、雇用を活用した企業的経営を実践し、農業従事者1人当たり高い所得を確保している。

イ 生産技術

地理的特性を活かし、ほうれんそう栽培に特化し施設の有効活用を図っている。土づくりやほ場整備につとめ、新品種や新技術の積極的導入を図り、高い生産性をあげている。

ウ 労働と生活

34名の雇用者の労災加入や宿泊施設の整備をはじめ、労務管理を徹底するとともに、家族や雇用者の働きやすい作業環境の整備につとめている。

エ 販売の工夫

「出荷物の価格は自分が決める」ことを実践し、量販店や仲卸等との出荷先を自分で開拓し、直接取引を含めた複数の販売ルートを確保している。

オ 元気度

傾斜地で浅い作土の土壌環境を土地改良等で克服し、新技術等の導入とあわせ、単収向上を図り地域の生産向上への波及効果は極めて高いものがある。GAPの導入や出荷フィルムへの氏名記載等、安全性や品質に関する取り組みも顕著である。

戸村 弘一・美代子（さくら市）

とちぎ元気大賞（農林水産大臣賞）及びとちぎ元気賞（知事賞）受賞

【園芸の部】



ア 経営

いちご生産において、県内トップレベルの経営規模を誇り、雇用等を有効活用した大規模経営を実践し、高い所得をあげている。

イ 生産技術

空中採苗方式や自動換気装置等の省力技術を積極的に導入し、耕畜連携による完熟堆肥の投入につとめ、生産性の向上に努めている。

ウ 労働と生活

研修生や人材派遣会社からのボランティアアルバイトを住み込みで受け入れており、作業終了後のカラオケが従事者のリフレッシュ効果となっている。

エ 販売の工夫

系統共販のほか、生協等への契約販売にも取り組み、年々そのウエイトを高めてきている。

コンテナ出荷で省力化を図りながら、生食から業務まで多様な用途に対応している。

オ 元気度

J A部会の部会長を2年間つとめ、長年にわたり組織リーダーとして産地拡大にも大きく貢献してきた。

平成10年以降急速に経営規模拡大を図ってきており、後継者の就農も契機にさらに法人化や日本一のいちご経営を目指していく。

## 鱒淵 憲 (宇都宮市)

とちぎ元気賞(知事賞)受賞

### 【土地利用型の部】

#### ア 経営

稲+二条大麦+大豆で 24ha の大規模経営体。  
農業所得は県の目標を上回り、経営全体の所得率は 43.9% と高い水準にある。



後継者は平成 14 年に農業大学校を卒業後即就農している。

また、生産費を削減するため地域で生産資材の共同購入を推進している。

#### イ 生産技術

徹底したコスト低減に取り組み、費用対効果が最大になるように資材選定、防除要否の検討を行い経費削減を心がけている。

#### ウ 労働と生活

サラリーマン並の労働時間を実現するため、省力化技術等を取り入れ労働時間の削減に努めている。

そのため、10a 当たり作業時間は水稻 11.5 時間、麦 3.5 時間、大豆 4.5 時間を実現。

労働生産性が極めて高い経営体である。

#### エ 販売の工夫

実需者ニーズを的確に把握し、ニーズに対応した良質な米・麦・大豆づくりを行っている。

米については特別栽培米の取り組みを開始し、麦は実需からの要望に応え麦種転換を行っている。

#### オ 元気度

地区の生産組織連絡協議会長として地域の経営部門のまとめ役として活動している。

また、数少ない土地利用型農業の地域の担い手として土地の集積を進めている。

谷田部 一夫・典子（上三川町）

とちぎ元気賞（知事賞）受賞

【園芸の部】



#### ア 経営

技術力の高さに基づく品質の高さ、高い収量性、製品率の高さから高い収益性を確保している。

#### イ 生産技術

養液栽培において、定期的な養液診断によるきめ細やかな液肥管理により高品質、高生産性を確保している。特に、品種特性を把握したうえでの草勢管理は、収量性、製品率の向上につながっている。

#### ウ 労働と生活

常時雇用を導入し技術・知識を習得させることで、整枝・採花作業等の効率化を図るとともに、計画的な作業体系を確立している。また、労働負荷低減のため温度管理・養液管理の自動化や、無人防除機の導入など省力化を図っている。

#### エ 販売の工夫：

水を吸わせた状態で出荷する独自方式を導入し、品質低下を防ぐことで他産地との差別化を図っている。

また、消費宣伝のため仲間と連携したキャンペーンを積極的に実施している。

#### オ 元気度

県、および地区の生産者組織会長を歴任し、組織リーダーとして新技術を含めた栽培技術の向上に大きく貢献してきた。

特に、きめ細かな管理など高い技術力による品質、生産性の高さは他の生産者の模範となっている。

川上 賢二・容子（那珂川町）

とちぎ元気賞（知事賞）受賞

【畜産の部】

ア 経営

栃木県でも有数の大規模和牛繁殖経営。

水田での 750 a の牧草と 390 a の飼料用俵

生産 40 a の水田放牧、3000 a の稲刈り収集により飼料生産拡大に努め、畜産部門で 781 万円の所得を確保している。

イ 生産技術

育種価（遺伝的能力の評価）を活用した優良雌牛の確保や早期離乳により、繁殖成績の向上（分娩間隔は 12.8 か月で 1 年 1 産目前）や優良な子牛生産（10 か月齢で 300kg）を達成している。

ウ 労働と生活

施設の計画的な配置により作業動線に配慮した作業環境整備、ロールバーによる省力化を進め、親夫婦との連携で年数回の旅行も行っている。

資産を親子間で専従者給与として継承する形での経営委譲は、経営者としての自立と経営管理能力の向上に活かされている。

エ 販売の工夫

繁殖及び肥育農家が一丸となってとちぎ和牛のブランド強化を進めている中、定例の情報交換会やとちぎ和牛の PR イベントに積極的に参加し、消費者や肥育農家に望まれる子牛生産を目指している。

オ 元気度

地域の JA 部会や認定農業者会の他、全県的な農家主体の組織である「とちぎの和牛を考える会」の副会長として活躍中。

平成 20 年には牛舎整備やほ乳ロボットを導入等、具体的な計画（66 頭→100 頭）があり、優良後継牛を保留するなど規模拡大の準備を着々と進めている。

水田放牧や飼料用俵の直播栽培等の先進的な取組は、地域の畜産農家に波及している。



(有)黒澤牧場代表：黒澤 守（上三川町）

とちぎ元気賞（知事賞）受賞【畜産の部】

ア 経営

母豚 300 頭、年間 5033 頭の肥育豚を出荷している。平成 15 年には長男の就農と同時に法人化。汚水浄化槽の整備やバット方式の導入、堆肥共励会で実証された良質堆肥生産等、環境を重視した大規模一貫養豚経営を確立している。



イ 生産技術

昭和 56 年には種豚価格日本一を記録するなど高い技術力を持つ。

養豚経営ソフトによる緻密な管理や優良母豚導入など繁殖部門の技術水準は高い。リン酸を多く含む麦類の多給、木酢液や海藻粉末の添加など、肉の食味向上に意欲的。

ウ 労働と生活

豚舎周辺にマサキ、敷地内にはスイセンを植え景観改善を図っている。

バットでの作業状況の確認とスケジュール管理、福利厚生充実など、従業員も含めた労働環境の改善に取り組んでいる。

エ 販売の工夫

農協出荷の他、指定配合飼料によるブランド豚「秀麗」として販売。

スーパーやレストランの要望に合わせた独自のブランド豚「Rock・やんちゃ豚」では地域の農産物と連携し写真付きのポスター展示など更に付加価値を示した有利な販売を進めている。

オ 元気度

製造副産物（のり、ゴマの粕）の添加や飼料米の試験的給与など、更なるコスト削減、肉質向上に努力している。

ブランド名の由来であるロック歌手を目指した青年時代の志は、地域の 4 Hクラブ等で活躍（地区会長）している後継者にも引き継がれている。地産地消宅配システムやバーベキュー施設による消費者との交流、ドングリで肉の風味向上など将来に向けた計画も独自性が高い。

## 川上 偉功・弘子（大田原市）

とちぎ元気賞（知事賞）受賞

### 【複合の部】



#### ア 経営

「園芸＋畜産＋耕種」のバランスの良い経営スタイルをとり、効率的な土地・労働・資本配分や資源循環型農業の取り組みにより、認定農業者の認定基準所得目標を大幅に上回る所得を確保しており、家族経営のモデル的経営体である。

#### イ 生産技術

水稻、いちごは土壌診断に基づく肥培管理や土づくりによる化学肥料・農薬の低減栽培を実践しつつ一定レベルの単収を確保。畜産はE T技術導入により良質血統牛の効率生産を実現。

#### ウ 労働と生活

家族経営協定締結による役割・責任分担の明確化はもとより、休日交代制、家族全員の間ドック受診、定期的な旅行や食事会などを通し、「ゆとり」と「リフレッシュ」を実践。

#### エ 販売の工夫

肥育農家への市場調査を踏まえ、良質血統牛導入や交配管理を行い、高販売額での出荷を実現。いちごワインは過熟果実の有効利用に役立ち、新たな地産地消品として注目。

#### オ 元気度

制度資金を活用した計画的な設備投資により、投資・収支・労働配分のバランスを確保。また、地域の休耕田への牧草作付けや堆肥と稲わら交換の耕畜連携を通して地域農業発展に大きく貢献。農地・水・環境保全向上の取り組みによる地域交流にも積極的。

農地を有効活用しつつ家族が各人の能力を活かして農業に取り組む姿は、経営のモデル性が高い。